

新 委員長紹介



会報委員会

委員長 松本 暁子 (小80、大中23、茨高23期)

前期に引続き委員長をさせて頂くことになりました。

会報は前期同様、6月初旬と12月初旬の年2回の発行といたします。

情報を、活字にして発行し、周知にする

ということがいかに難しく責任のある立場であるかということを含め、痛感しております。

学院長始め学院の役員、各校長、教頭、教職員、山桜会会員、在校生の皆様にはいつも記事にご協力頂き、また、前号では塚屋太一さんに出会い、ボランティアで原稿を書いて頂き、大変感謝致しておりますとともに、喜びも感じております。

東奔西走情報を集め、今後益々充実した内容の会報を作っていくたいと思っておりますが、会報委員会のみでの情報収集には限界があります。会員の皆様もどうぞ情報のご提供をお願いします。

前期6回の発行の経験を踏まえ皆様に読んで頂ける、発行が待ち遠しいと言われるような会報を目指し、委員会メンバーと協力して制作して参りますので、どうか皆様ご期待ください。



渉外交流委員会

委員長 藤村 敬 (小79期)

今期、渉外交流委員長を仰せつかりました。山桜会会員の皆様よろしくお願ひ申し上げます。

渉外交流委員会は、追手門学院小学校、大手前中学校、茨木中学校との交流活動を行ない、また学院への貢献活動を行なうことにより、

広く多くの人に山桜会の存在意義を認識していただくことが大きな役割でございます。

具体的な活動内容としましては、小学校の文化祭への参加(いか焼きの販売、山桜会饅頭の販売)、大手前中学校の文化祭への参加、茨木中学校のスポーツ大会への参加など学院各学校の行事への参加により、先生方、在校生、PTAの皆様に対しまして山桜会のPR活動に努めております。また山桜会名称入りの記念品を生徒に贈呈することにより、現役学生に対して更なる山桜会への認識を高めることを行なっております。

今期は4年間という長い任期となりますが、山桜会の存在意義を更に高める為に、また学院への貢献活動により学院の発展に少しでも寄与できるように、新しい活動を計画実施していく所存でございます。山桜会会員の皆様の御意見、御助力を頂戴しながら、委員会運営を行なってまいりますので、よろしく御支援の程お願ひ申し上げます。



会報委員会

企画担当

副委員長 藤原 弘邦 (茨高24期)

この度、会報委員会の企画担当をさせて頂きます。

文章系は全く経験も無く得意ではありませんが、山桜会会員にとって、年2回発行の会報の必要性や、追手門学院・山桜会と卒業生との唯一の橋渡しとしての役割を考え、見て頂ける人に少しでも印象に残るような意味のある企画を考え、皆様のご協力の元、会報を作っていくよう頑張りたいと思います。

この度、会報委員会の企画担当をさせて頂きます。

文章系は全く経験も無く得意ではありませんが、山桜会会員にとって、年2回発行の会報の必要性や、追手門学院・山桜会と卒業生との唯一の橋渡しとしての役割を考え、見て頂ける人に少しでも印象に残るような意味のある企画を考え、皆様のご協力の元、会報を作っていくよう頑張りたいと思います。



渉外交流委員会

PTA交流担当

副委員長 辻中 徳一 (茨高23期)

担当部会副委員長として

私は娘のPTA活動を通じて母校と山桜会にこの6年間係わりをもたせて頂き感じたことはやはり茨木と山桜会との距離があり、その要因の一つとして茨木との接触機会が少なかったからと思われます。

今後もっと茨木との接触機会を多く持ち、学校側ももっと山桜会を良い意味で利用してもらえるようそのパイプ役として、微力ですが努力する所存ですので宜しくお願ひ致します。



会報委員会

運営担当

副委員長 小林 三郎 (小87、大中高30期)

この度、会報委員会運営担当をさせて頂きます。

今まで私は遠巻きのように山桜会を眺めておりましたが、いざ評議員に選ばれて川原会長以下理事・委員の皆さまの追手門への熱い想いを聞きし、とても感銘を受けました。山桜会報は、昨今のインターネット環境の充実にあっても、総会員数25,000名の山桜会会員の情報交換・相互理解そして親交を深める上で重要な手段の一つだと思います。

まだまだ右も左も分からない私ですが、諸先輩方のご指導を受けながらがんばっていきたくと思っております。

4年間宜しくお願ひ致します。



渉外交流委員会

大学校友会交流担当

副委員長 石原 健一 (大中高33期)

母校の同窓会組織である「山桜会」に初めて評議員として運営に携わることになりました。さらに渉外交流委員会の大学校友会担当として、副委員長の重任を拝命致しました。

昭和60年大手前中等高等学校卒業後、追手門学院大学文学部東洋文化学科(現、アジア文化学科)へ進学。中学、高校、大学と「追手門学院」で青春時代を過ごさせて頂きました。改めて両親に感謝しております。活動方針としましては、運動部で申しますと「山桜会」OBと「大学校友会」OBとの交流試合の実施。文化部で例えますと、一つ芸術作品を双方の同窓会組織のOBで作品を作りあげる等。スポーツ、文化両面で協力し合える体制を各委員会との連携で運営していきたくと考えております。充実した4年の任期とするためにも楽しく、明るく、元気よくやって行きたいです。

微力ながら精一杯頑張っておりますので、何卒会員の皆様ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。